

31. 腰部交感神経節ブロックと抗凝固・抗血栓療法

CQ33：抗凝固薬・抗血小板薬を使用している患者に腰部交感神経節ブロックを安全に施行できるか？ 出血性合併症のリスクは対照群（抗凝固薬・抗血小板薬を使用していない患者）と同等か？

抗血小板薬および抗凝固薬を服用している患者に対する腰部交感神経節ブロックは、治療効果と合併症発症リスクに関して症例ごとに慎重な検討を行い、十分な説明と同意の下で適用する必要がある。また、抗血小板薬および抗凝固薬は体幹深部の神経ブロックに準じて適切な休薬期間を設けることが望ましく、休薬期間中の血栓症発症リスクについても慎重に判断する必要がある。

推奨度：エビデンス総体の総括：1D

解 説：

腰部交感神経節遮断は、再還流治療が適応とならない重症下肢虚血患者の症状緩和、下肢末梢神経障害患者の鎮痛、足底多汗症患者の発汗抑制などに適用されることがある。これらの患者が抗血栓療法を受けている可能性は高く、特に重症下肢虚血患者の管理ではいくつかの抗血栓療法が高いエビデンスレベルで推奨されている。

腰部交感神経節ブロックを実施する際に既に適用されている抗血栓療法を中止することに関する比較研究は実施されていない。しかし、抗血栓療法実施中に腰部交感神経節ブロックを実施し、出血性の合併症を生じた報告は複数ある。そこで、他の体幹深部を目標に実施される穿刺処置のガイドラインを参考にして、いくつかの指針が述べられている。それらの指針では、凝固障害時や完全な抗血栓療法下の実施を禁忌としている。また、抗血栓療法の中止は、原疾患による血栓症発生のリスクを高めることから、抗血栓療法に用いる薬物を作用時間の長い薬物から作用時間の短いヘパリンに切り替え、抗血栓療法の完全中止期間を手技前後の数時間に留めることが推奨されている。

なお、総論部分との繰り返しになるが、上記推奨事項はあくまでも現存の資料等から考察されたものであり、個別症例に対する適用では、症例ごとの特性に基づき個別に判断されるべきものである。

参考文献

<症例報告>

1. Shin HJ, Choi YM, Kim HJ, et al: Retroperitoneal hemorrhage from an unrecognized puncture of the lumbar right segmental artery during lumbar chemical sympathectomy: Diagnosis and management. J Clin Anesth 2014; 26: 671-675
2. Maler C, Gleim M, Weiss T, et al: Severe bleeding following lumbar sympathetic blockade in two patients under medication with irreversible platelet aggregation inhibitors. Anesthesiology 2002; 97: 740-743

3. 莊園雅子, 酒井雅人, 山鳥嘉世, 他: 透析患者の腰部交感神経節ブロック後に腸腰筋内出血・傍脊椎出血を生じ治療に難渋した症例. 日本ペインクリニック学会誌 2007;14:132-135
4. 中島芳樹, 西野淳子, 五十嵐寛, 他: 腰部交感神経節ブロック後に硬膜外血腫をきたした症例. 日本ペインクリニック学会誌 2008;15:39
5. 中河達史, 長尾靖之, 横山弥栄, 他: 腰部交感神経節ブロック後, 後腹膜血腫を発症した blue toe syndrome の一症例. 日本ペインクリニック学会誌 2008;15:340
6. Yoshida WB, Cataneo DC, Bomfim GAZ, et al: Chemical lumbar sympathectomy in plantar hyperhidrosis. Clin Auton Res 2010; 20: 113-115

<原著論文>

7. Tay V, Fitridge R, Tie M: Computed tomography fluoroscopy-guided chemical lumbar sympathectomy: Simple, safe and effective. Australasian Radiology 2002; 46: 163-166
8. Nesargikar PN, Ajit MK, Evers PS, et al: Lumbar chemical sympathectomy in peripheral vascular disease: Does it still have a role? Internat J Surg 2009;7: 145-149
9. Kim WO, Yoon KB, Kil HK, et al: Chemical lumbar sympathetic block in the treatment of plantar hyperhidrosis: A study of 69 patients. Dermatol Surg 2008; 34: 1340-1345

<総説・ガイドライン>

10. Rooke TW, Hirsch AT, Misra S, et al: 2011 ACCF/AHA focused update of the guideline for the management of patients with peripheral artery disease: A report of the American College of Cardiology Foundation/American Heart Association Task Force on Practice Guidelines. Circulation 2011; 124: 2020-2045
11. 田邊 豊: 腰部交感神経ブロック. (日本ペインクリニック学会インターベンショナル痛み治療ガイドライン作成チーム・編: インターベンショナル痛み治療ガイドライン). 東京, 真興交易医書出版部, 2014, 33-35
12. Tie M, Koczwara B. Radiology interventions in patients receiving low molecular weight heparin: Timing is critical. Australasian Radiology 2001; 45: 313-317
13. Setacci C, de Donato G, Teraa M, et al: Treatment of critical limb ischaemia. Euro J Vascular Endovascular Surg 2011; 42: S43-S59
14. Straube S, Derry S, Moore RA, et al: Cervico-thoracic or lumbar sympathectomy for neuropathic pain and complex regional pain syndrome. Cochrane Database Syst Rev 7; CD002918. doi: 10.1002/14651858. 2014 June 12